

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月31日(火) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

		4月29日現在	5月の予想 (月末値)	
USD	ドル・円 (円)	160.41	152.0 ~ 164.0	159.0
	中東情勢不透明感を背景とする原油高で円は売られやすい展開が続く			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.168	1.14 ~ 1.20	1.17
	ユーロ・円 (円)	187.21	181.0 ~ 191.0	186.0
ECBの利上げを排除しない姿勢がユーロを下支え				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.348	1.33 ~ 1.36	1.34
	ポンド・円 (円)	216.16	212.0 ~ 218.0	213.1
英ポンドは原油高が意識され、対円・対ドルで上値の重い展開				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	114.16	110.0 ~ 116.0	112.0
	NZドル・円 (円)	93.46	91.0 ~ 95.0	92.0
豪中銀利上げ後は出尽くしてオセアニア通貨は上値の重い展開				
株式 相場	日経平均 (円)	59,917	57,500 ~ 62,000	61,000
	物色の集中が進み、勝ち組と負け組で格差が拡大しよう			
	NYダウ (ドル)	48,862	47,000 ~ 52,000	50,000
ハイテク株に見直し買いの動きが継続しよう				
長期 金利	日本 (%)	2.477	2.30 ~ 2.70	2.50
	日銀利上げ観測かや財政拡大懸念から、長期金利は上昇しやすい			
	米国 (%)	4.430	3.80 ~ 4.60	4.35
ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい				

## ◆ 今月の注目ポイント

### FRB議長交代と政策論議の行方

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
FRB議長交代	○	【米FRB議長交代】パウエルFRB議長が任期を迎え、後任にウォーシュ氏が就任する見込み。パウエル氏は合意形成を重視してきたのに対し、ウォーシュ氏はより率直な議論を志向する可能性がある。金融政策面ではバランスシート縮小と金利操作の役割分担を重視する姿勢が意識されよう。ただし政策運営は連続性が重視される公算が大きく、急激なスタンス変更には至らない見通し。
日米政策論議	◎	【日米政策論議】中東情勢の緊迫化が原油価格やインフレ期待を通じて、日米の政策論議に影響を与える展開が注目される。日本では景況感の悪化が鮮明となっており、实体经济への波及が焦点となる。仮に経済指標の下振れが続けば、財政支援策の議論が強まり、国債増発観測を通じて金利には上昇圧力がかかる可能性がある。一方、米国景気が底堅さを維持する場合、利下げ期待の後退や追加利上げ観測がリスク資産の重石となろう。

## ◆ アジア通貨見通し

	4月29日現在	5月の予想 (月末値)	
人民元・円	23.42	22.00 ~ 23.00	22.50
バーツ・円	4.893	4.75 ~ 5.00	4.80
ルピア・円	0.925	0.88 ~ 0.94	0.92

## ◆ 今月の重要日程

1日(金) 米 4月ISM製造業景況指数	15日(金) 米 4月鉱工業生産
5日(火) 米 3月貿易収支	18日(月) 日 5年債入札
8日(金) 米 4月雇用統計	21日(木) 欧 5月PMI
12日(火) 日 10年債入札	22日(金) 日 4月CPI
12日(火) 米 4月CPI	29日(金) 日 4月鉱工業生産
12日(火) 米 10年債入札	31日(日) 中 5月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

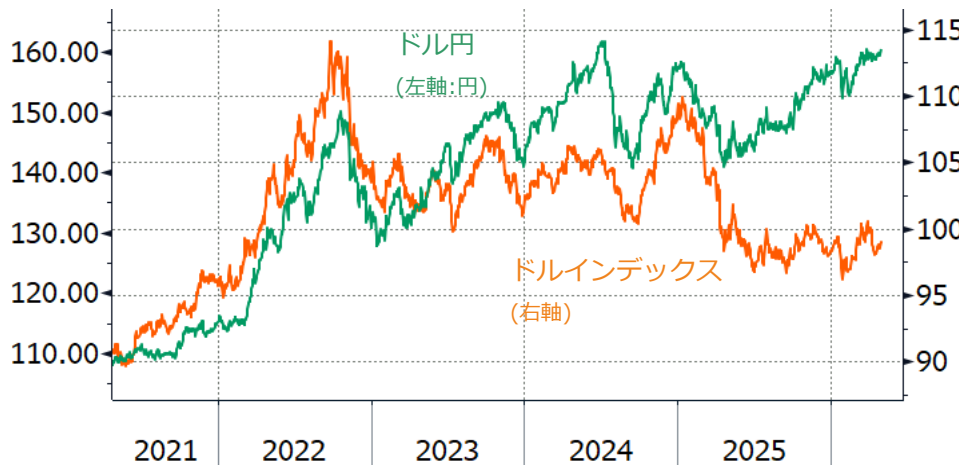
◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

### ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

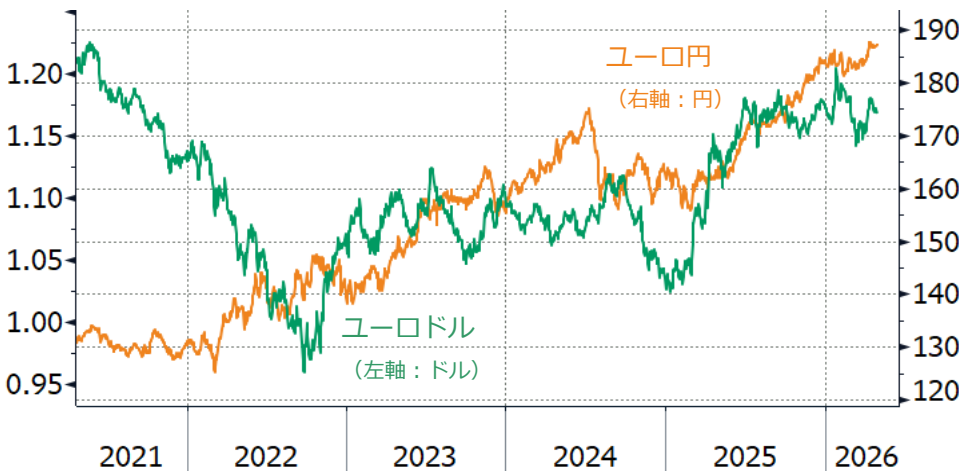
**152.00 – 164.00円**

#### 中東情勢不透明感を背景とする原油高で円は売られやすい展開が続く

4月のドル円は、158円台後半で始まったのち、159円を挟んで高止まりし、月末にかけては160円の節目を上抜けた。月前半は、中東情勢の緊迫化を背景に原油価格に上昇圧力がかったほか、安全資産としてのドル買いも意識された。加えて、市場では日銀の4月利上げ観測が後退し、次回利上げ時期は6月との見方が強まったことから、日米金利差を意識した円売り・ドル買いが優勢となった。もともと、160円近辺の水準では、日本当局が投機的な為替変動への警戒を強めており、介入警戒感が相場の上値を抑える展開もみられた。

5月のドル円は、159円前後を中心とする値動きを想定する。FRBが当面は高金利を維持する公算が大きく、ドルを下支えしやすい。また、中東情勢を背景とする原油高懸念は、日本の交易条件悪化を通じて円売り圧力につながりやすい。もともと、160円近辺では当局のけん制と介入警戒感が引き続き意識されやすく、日銀が先行きの追加利上げに含みを持たせる場合には円安進行も抑えられやすい。このため、方向としてはドル高・円安圧力が残るものの、160円を持続的に上抜ける余地は限られ、150円台後半を中心とした推移となろう。

### ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

**1.14 – 1.20ドル**

ユーロ円

**181.00 – 191.00円**

#### ECBの利上げを排除しない姿勢がユーロを下支え

4月のユーロは、対ドル・対円ともに上昇する展開となった。中東情勢の長期化懸念が意識された一方、ECBはエネルギー高がインフレ上振れと成長下振れの双方のリスクを高めていると指摘しつつ、複数の高官は近い将来の利上げを排除しない姿勢を示しており、対ドルではユーロの下値を支えられた。対円では、ドル円の上昇に連れてユーロ買い・円売りが優勢となった。

5月のユーロは、対ドルでは底堅いものの上値の重い推移、対円では高値圏でのみみ合いを想定する。ユーロ圏では、エネルギー高を背景とするインフレ再加速懸念が残る一方、4月の総合PMIは下落しており、景気下振れ懸念も根強い。このため、ECBは政策変更を急がず、情勢を見極める姿勢が意識されやすく、ユーロの下値は限られる半面、景気懸念が上値を抑えやすいだろう。一方、対円では、高値圏での推移を想定するが、円安が加速する局面では当局のけん制や介入警戒感が上値を抑える公算が大きい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

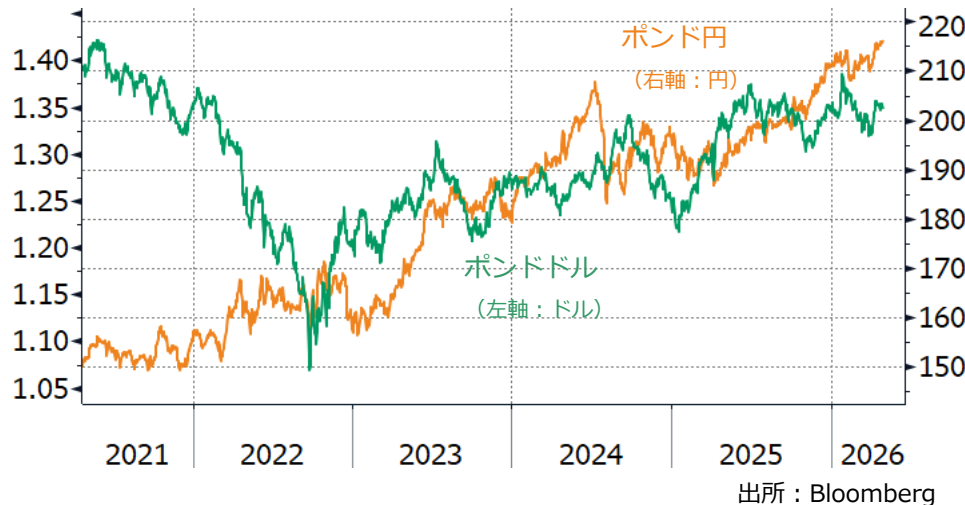
2026/4/30

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

### ポンド



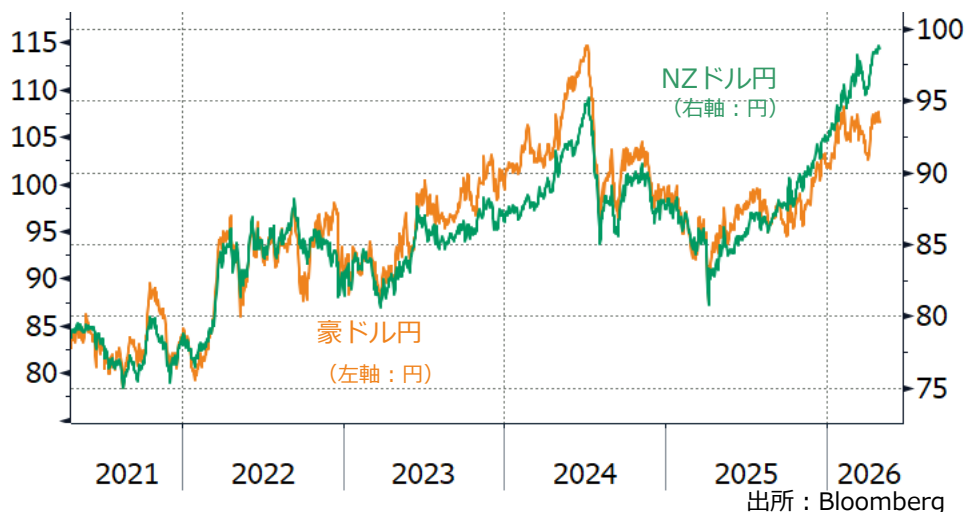
ポンドドル	1.33 – 1.36ドル
ポンド円	212 – 218円

#### 英ポンドは原油高が意識され、対円、対ドルで上値の重い展開を予想

4月の英ポンド相場は、対ドル、対円で堅調に推移した。背景としては米国とイランの紛争が最悪期を脱したとの見方から、有事のドル買いが一服したこと。ドル買いの巻き戻しの動きから英ポンドの買戻しの動きが見られた。対ドルで英ポンドは1.36ドルの節目近くまで上昇。一方、対円では日銀の4月利上げ観測が後退するなかで円が主要通貨に対して売られ、英ポンド円は直近高値を更新し、216円台まで上昇。

5月の英ポンド相場は上昇一服を見込む。原油価格が高止まりしており、米国とイランの停戦合意には時間がかかると見られているほか、合意しても、しばらく高止まりすることが見込まれている。ドル売りの動きは一服となりやすい。また対円でも日銀は4月日銀金融政策決定会合でインフレ警戒を強めており、高値圏では次回会合での利上げや政府による円買い介入の動きが意識される。徐々に上値の重さが意識されよう。英国内のインフレ警戒は強いものの、年内3回程度の利上げが織り込まれるなかで一段の買い材料とはなりづらい。

### 豪ドル・NZドル



豪ドル円	110.00 – 116.00円
NZドル円	91.00 – 95.00円

#### 豪中銀利上げ後は出尽くしてオセアニア通貨は上値の重い動きとなる

4月のオセアニア通貨は豪ドル・NZドルともに堅調に推移した。背景としては英ポンドと同様。米国とイランの戦争に関して停戦合意期限が延長されるなど、トランプ米大統領がエスカレート回避する姿勢を見せており、最悪期は脱したとの見方が広がったことが挙げられる。有事のドル買いの巻き戻しの動きから、豪ドルは対ドルで買戻しが活発となり、0.72ドル台まで上昇した。対円でも日銀の4月利上げ観測が後退する中で円が主要通貨のなかで売られる展開となり、豪ドル円は114円台まで上昇。NZドル、NZドル円も豪ドルには劣後するものの底堅く推移した。

5月オセアニア通貨は月初底堅く、徐々に上値の重くなる展開を予想。5日のRBA理事会は25bpの利上げが見込まれている。利上げ期待から底堅い展開が見込まれる。但し、原油価格が堅調に推移する中、再度ドル買いの動きが優勢となっており、NZドルも調整の動きがみられる。豪中銀による利上げ後は出尽くして豪ドル・NZドルともに売られやすい展開が予想される。対円でも日本の6月利上げ観測がくすぶる中で上値の重い展開となる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

### 株式見通し



出所：Bloomberg

日経平均

**57,500 – 62,000円**

#### 物色の集中が進み、勝ち組と負け組で格差が拡大しよう

中東情勢の悪化で質への逃避が続いている。すなわち、業況が良好で、バリュエーションもヒストリカルには低位で、懸念される資源高が一定程度価格転嫁可能とみられるハイテク企業への物色が集中している。指数は最高値近辺にあるものの、ファンダメンタルズと割安なバリュエーションの修正による上昇であるため、過熱感は見受けられない。5月にかけて、一段の上昇余地を残しているとする。

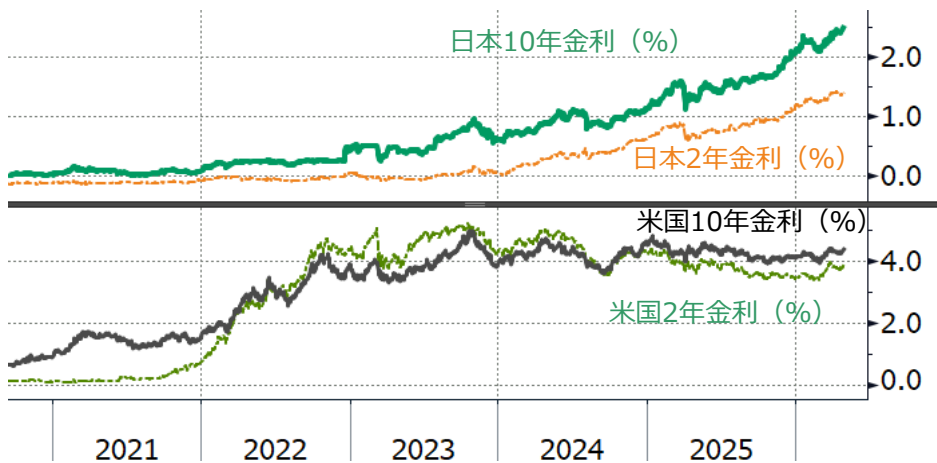
NYダウ

**47,000 – 52,000ドル**

#### ハイテク株に見直し買いの動きが継続しよう

一部の空売り投資家が、飛躍した論理によってAIバブルを警告したことを契機にセンチメントが低調となっていたものの、ようやくファンダメンタルズに即して適正な評価がされ始めた。ハイテク株のファンダメンタルズは良好かつ、バリュエーションは低位なため、依然として上昇余地は大きい。加えて、米国経済は循環的回復局面を迎えている。物色の広がりが見られるようであれば、最高値近辺での値固めが期待できる。

### 長期金利見通し



出所：Bloomberg

日本国債10年

**2.30 – 2.70%**

#### 日銀の利上げ観測や財政拡大懸念から、長期金利は上昇しやすい

4月は引き続き原油価格高騰に伴うインフレ警戒から、金利の上昇基調が継続し、10年金利は2.5%の節目に達し、99年以来の高水準に金利は上昇した。日銀は4月の日銀会合でインフレ警戒を強めており、引き続き6月利上げ観測がくすぶりやすい環境。合わせて政治面では6月の成長戦略会議に向けて財政拡張の議論が浮上しやすい。国債の増発も意識され、金利は上昇しやすい展開となる。

米国債10年

**3.8 – 4.6%**

#### ネルソン・シーゲルモデルによれば、長期金利は変動余地に乏しい

米金利は4.00% – 4.40%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。ネルソン・シーゲルモデルによれば、短期金利は金融政策の見通し次第で大きく変動する余地があるものの、既に高止まりしている長期金利については、変動余地がほとんど残されていない。無論、センチメントによって長期金利が変動する場面も想定されるが、レンジの上限や下限は裁定の機会と捉えるべきであろう。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/4/30

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		5月の予想		見通し
中国	人民元/円	22.00	～ 23.00	<b>原油高や日銀の利上げ観測から人民元は対円・対ドルで売られやすい展開</b> 4月のドル/人民元は米国とイランの交渉に楽観的な見方が広がる中で、有事のドル買いの動きが一服。中旬にかけてドル買いの巻き戻しの動きから人民元が買われる展開となった。一方、人民元円は4月利上げ観測が後退する中で、月を通じて堅調に推移した。米国とイランの合意に時間がかかる中、対ドルでの人民元買いの動きは一服。5月是对ドルで売られやすい展開を見込む。対円でも日銀の6月利上げ観測がくすぶり、人民元は売られやすい。
	ドル/人民元	6.80	～ 6.95	
タイ	バーツ/円	4.75	～ 5.00	<b>原油高が直撃し景気に打撃となり、対ドル・対円で軟調推移</b> 4月のバーツ相場は月央にかけて対ドルで堅調に推移した一方、月末にかけて軟調に推移した。月央にかけては米国とイラン情勢の改善期待から有事のドル買いの動きが一服し、バーツは堅調に推移した。しかし、依然米国とイランの緊張関係がくすぶっているほか、29日のタイ中銀会合では政策金利を据え置き、利下げに慎重なスタンスを示した。5月のバーツ相場は軟調な展開を想定する。原油価格高騰が直撃し、経済情勢は極めて厳しく、中銀は利上げに慎重なスタンスを取ると見込まれる。主要通貨に対して売られやすい展開が継続すると見込む。
	ドル/バーツ	31.5	～ 34.0	
インド	100ルピア/円	0.88	～ 0.94	<b>原油高・資本流出・財政懸念が下押し材料となり、対ドル・対円でルピアは軟調推移</b> 4月のルピアは対ドルと対円で一方向に売られる展開となった。①原油高②インドネシア国債や株式市場からの資金流出③米インフレ期待の高まりに伴う利下げ観測の後退が挙げられる。インドネシア中銀はルピアが割安であるとして介入の可能性を示唆するが、ルピア売りの環境に大きな変化はない。5月のルピア相場も軟調推移が予想される。エネルギー補助金対応による財政懸念もルピア売りに拍車をかける材料となりやすい。
	ドル/ルピア	17,000	～ 18,000	

—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/4/30

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 年間為替見通し

		2026年			2027年			ポイント
		5~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
ドル円	レンジ	145 ~ 165	140 ~ 165	140 ~ 165	140 ~ 165	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。FRBの新人事を巡り利下げ織り込みが大幅に進むことがあればドル安となりやすい場面も。		
	期末値	155	155	155	155			
ユーロドル	レンジ	1.10 ~ 1.22	1.12 ~ 1.24	1.12 ~ 1.24	1.12 ~ 1.24	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて25年春より急速にユーロ高となった。足元では中東情勢悪化を受けたドル買い戻しからユーロはやや軟調に推移しているが、ECBの利上げ観測などもあり底堅い推移を見込む。		
	期末値	1.16	1.18	1.18	1.19			
ユーロ円	レンジ	170 ~ 195	175 ~ 195	175 ~ 195	175 ~ 195	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。目先は中東情勢を巡る思惑からドルや原油はボラティルな動きとなっているが、一方向の動きは徐々に一服するであろう。		
	期末値	180	183	183	185			
ポンドドル	レンジ	1.30 ~ 1.38	1.30 ~ 1.36	1.29 ~ 1.35	1.29 ~ 1.35	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。昨年末から年初にかけては元高を一定程度容認したように見えたが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではない。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでは6.9前後を中心とした推移となる。		
	期末値	1.34	1.33	1.32	1.32			
ポンド円	レンジ	202 ~ 218	202 ~ 209	200 ~ 208	200 ~ 208	インフレに対する警戒感や労働市場の底堅さから豪中銀は利上げ継続。中東情勢を巡り振れは出やすいが、一方向の動きとはなりにくい。		
	期末値	208	206	205	205			
ドル人民元	レンジ	6.85 ~ 7.00	6.86 ~ 7.01	6.84 ~ 6.99	6.83 ~ 6.98	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さや原油高が逆風となりやすい。		
	期末値	6.92	6.93	6.91	6.90			
人民元円	レンジ	20.7 ~ 24.0	20.6 ~ 24.0	20.7 ~ 24.1	20.8 ~ 24.1	お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。		
	期末値	22.4	22.4	22.4	22.5			
豪ドル円	レンジ	108 ~ 116	105 ~ 112	103 ~ 110	103 ~ 110	当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。		
	期末値	110	108	106	106			
タイバーツ円	レンジ	4.60 ~ 5.00	4.60 ~ 5.00	4.60 ~ 5.00	4.50 ~ 4.90	お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。		
	期末値	4.80	4.80	4.80	4.70			

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
5/1(金)		4月ISM製造業景況指数		5/18(月)	5年債入札		(中) 4月生産・小売・投資
5/3(日)	(憲法記念日)			5/19(火)	1-3月期GDP速報		
5/4(月)	(みどりの日)			5/20(水)	20年債入札	20年債入札 FOMC議事要旨	
5/5(火)	(こどもの日)	3月貿易収支 4月ISM非製造業景況指数		5/21(木)	4月貿易統計	5月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(欧) 5月PMI (速報値)
5/6(水)	(振替休日)	4月ADP雇用統計		5/22(金)	4月CPI		(独) 5月IFO企業景況感指数
5/7(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3/18~19開催分)			5/25(月)		(戦没者祈念日)	
5/8(金)	3月毎月勤労統計 (速報)	4月雇用統計		5/26(火)		2年債入札 5月消費者信頼感指数	
5/11(月)		3年債入札 4月中古住宅販売	(中) 4月CPI	5/27(水)	40年債入札	5年債入札	
5/12(火)	10年債入札 3月家計調査	10年債入札 4月CPI	(独) 5月ZEW景気指数	5/28(木)		1-3月期GDP (改定値) 4月個人所得・消費支出 7年債入札	
5/13(水)	4月景気ウォッチャー調査	30年債入札 4月PPI	(欧) 1-3月期GDP速報	5/29(金)	2年債入札 4月鉱工業生産 4月労働力調査		
5/14(木)	30年債入札	3月製造業受注 4月小売売上高		5/31(日)			(中) 5月PMI
5/15(金)	4月企業物価指数	5月NY連銀製造業景況指数 4月鉱工業生産					

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## 中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

### 【4/3～9】

#### ◎ 国内線の燃油付加費が6倍に、5日から、原油高騰が航空に波及

中国の航空会社は5日から、航空運賃に上乘せする燃油特別付加運賃（燃油サーチャージ）を大幅に引き上げる。国内線が対象で、長距離路線は120元（約2,800円）と従来の20元から6倍に跳ね上がる。中東情勢の緊迫を受けた原油の高騰に伴い、航空燃料の価格も上昇しており、これを航空券価格に反映させる。旅行需要が高まる5月の労働節連休（1-5日）を目前にした引上げに、航空券を「買いだめ」する動きを出始めている。

### 【4/10～17】

#### ◎ 3月の輸出は2.5%増、ICや車が好調、中東向けは減少

中国税関総署が発表した2026年3月の貿易統計によると、輸出額は前年同月比2.5%増の3,210億3,270万米ドル（約51兆800億円）だった。4期連続でプラスとなったが、伸びは1-2月の21.8%からは大幅に鈍化した。集積回路（IC）や自動車の好調が追い風となった一方で、中東情勢の緊迫を受けて中東地域との輸出入は1-2月のプラスから3月にはマイナスに転じた。

## 主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
実質GDP成長率	%	-	5.2	-	-	4.8	-	-	4.5	-	-	5.0
消費者物価上昇率	%	-0.1	0.1	0	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1
都市部調査失業率	%	5.0	5.0	5.2	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4
輸出額	10億ドル	315.6	324.7	321.2	321.3	328.2	304.9	330.0	357.3	356.7	299.8	321.0
輸入額	10億ドル	212.9	210.8	223.8	220.1	239.0	216.1	218.9	243.6	234.2	209.1	269.9
経常収支	100万ドル	-	288,731	-	-	491,201	-	-	735,022	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.21	7.18	7.17	7.17	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

## ○「オープンクロー」(OpenClaw) が中国で普及

オープンクローは、オーストリア人のピーター・スタインバーガー氏が開発したオープンソースのAIエージェントです。ChatGPTやClaudeのような対話を通じて「アドバイスをするアシスタント」ではなく、命令を聞いて「実際に手を動かす労働者」となります。

例えば「会議のスケジュールを調整して」と指示すれば、参加者の空き時間を確認し、適切な時間を設定するといった一連の作業を自律的に行います。昨年11月に発表して以来、性能や汎用性の高さから中国で急速に普及しています。利用するには技術的な専門知識が必要であり、一般ユーザーの導入障壁は高いです。

今年から、クラウドサービスの大手企業やAIモデル企業が次々と関連製品の開発に乗り出しています。中国IT大手のテンセントは、クラウド上でオープンクローを簡単に利用できるサービスを1月に開始しました。今月、同製品の導入を無料サポートするイベントを開催すると、数百人分の予約枠が開始1時間でなくなりました。AIモデル企業もオープンクロー製品のAIエージェントをリリースし、市場の注目を集めています。

一方、情報セキュリティリスクの懸念が指摘されています。中国政府はオープンクロー導入に伴う被害事例を発表し、警告を発出しました。また、今年の3月11日に工業情報省は安全使用に向けたガイドラインを発表しました。急速に普及が進む反面、企業間でも警戒を強める動きが広がっています。



## ○BYD×KFCが「食事中に9分でEV満充電」を実現

中国自動車大手BYDとケンタッキーフライドチキンKFCは、「充電と食事」で提携契約を提携しました。KFCの店舗に併設した充電施設で充電しながら、車内でKFCの商品を食べたり飲んだりする仕組みを作ることで、消費者の利便性を高めることを狙います。協力は主に以下の3点で構成されています。

- ①ケンタッキーの「ドライブスルー」注文機能をBYDの車載システムに連携し、ユーザーが走行中に音声操作で注文および決済を行えるようにします。
- ②ユーザーは店舗到着後、ドライブスルー窓口で商品を受け取ることができます。
- ③店舗併設の充電設備でBYD車を充電しながら、食事をとります。

BYDが開発した超急速充電施設を使い、電池残量が10%から9分で充電が完了します。BYDはすでに全国で5,000か所以上の超急速充電ステーションを設置しており、2026年末までに約2万か所へ拡大する計画としています。EV充電の最大のネックは「充電時間が長い」という点ですが、1,500kW超の超急速充電は充電時間を食事時間と同等の9分まで短縮しました。これにより「充電は待ち時間」というEV普及の心理的障壁が取り除かれます。さらに、車内から食事の注文ができるという体験は、EV充電と日常消費行動の統合という新しいビジネスモデルとなります。ファストフードチェーンやコンビニでEV充電対応の展開を拡大し、充電×消費体験の融合は新しい消費トレンドになると予測されています。



### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/4/30

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

### ◆2026年2月のタイ経済、前月から減速

- ・タイ中央銀行は2026年2月のタイ経済は前月から減速したと発表した。
- ・**製造業**：電気自動車（EV）やエアコン等の減産が影響し、製造業全体の生産は前年同月比0.04%低下した。一方で、ゴム・プラスチック、食品・飲料、建設資材等の生産は増加した。
- ・**民間消費**：民間消費は前年同月比+2.9%と前月の+6.7%から減少した。EV普及奨励策の期限前の駆け込み購入の反動で、耐久財を中心に減速した。サービス消費も減少しており、ホテル・飲食業の減少によるもので、外国人観光客からの収入の減少に一致している。
- ・**民間投資**：設備投資と建設投資の双方の投資が増加し、前年同月比+15.5%を記録した。設備投資では資本財の輸入が引き続き増加している。建設分野では非住宅（オフィスビルや商業施設）と住宅ともに増加している。

### ◆2026年2月の輸出額、好調ながら伸び鈍化

- ・タイ商務省によると、2026年2月の輸出額は前年同月比+9.9%の約4兆6,700億円相当だった。

- ・主要工業製品が+13.3%と伸びた。コンピューター・同部品が前月の+68.2%から+49.8%に鈍化したものの、高い伸びを維持した。一方、農産物・加工品は▲5.7%だった。
- ・増加したのは、コンピューター・同部品（+49.8%）、機械・同部品（+28.4%）、変圧器・同部品（+47.1%）等。減少したのは、化学製品（▲6.9%）、合成樹脂（▲4.4%）等。
- ・主要向け市場では、米国+40.5%、欧州連合+20.6%、日本+9.7%だった。一方で、中国向けは+0.4%と前月の+35%から急縮小した。

### ◆バンコク自動車展成約、中国メーカーが上位

- ・タイ最大の自動車展示・販売イベント「第47回バンコク国際モーターショー」における自動車の成約台数は、前年比+72%の13万2,951台に達した。受注台数の順位では、中国メーカーのEVが首位となり、これまでトップだった日本メーカーは2位に後退した。3位から9位までの順位も中国メーカーのEVが中心となっている。燃料価格の高騰を背景に、EVへの関心が高まっており、その傾向が成約台数にも反映されている。

## 主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
実質GDP成長率	%	-	2.8	-	-	1.2	-	-	2.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1
失業率	%	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	-
輸出額	100万ドル	31,045	28,641	28,581	27,743	30,971	28,836	27,446	28,928	31,573	29,440	-
輸入額	100万ドル	29,639	27,417	28,259	29,708	29,696	32,272	30,172	29,280	34,876	32,273	-
経常収支	100万ドル	-321	3,212	989	-418	2,174	-1,914	-1,609	3,094	533	2,116	-
外貨準備高	10億ドル	257.6	262.4	261.9	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5
主要政策金利	%	1.75	1.75	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00
対ドル為替レート	パーツ	32.9	32.6	32.4	32.5	32.0	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

## ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

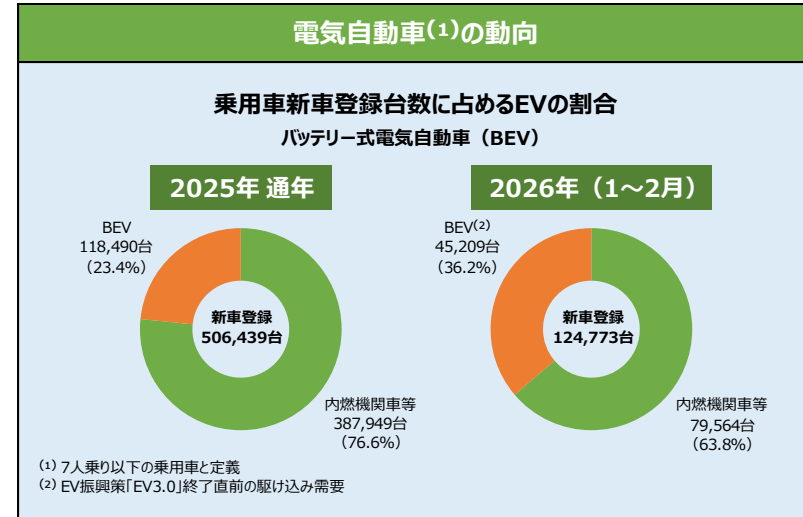
# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年5月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

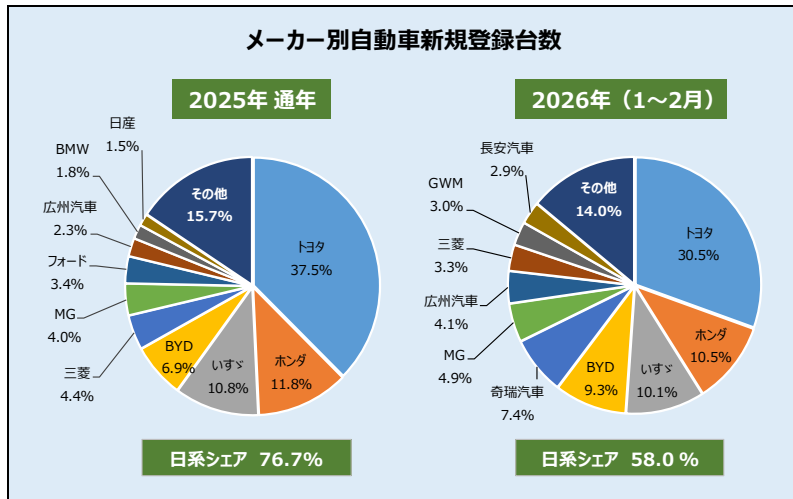
## タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向								
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1~2月)	前年同期比 (%)	2月	
<b>【台数】</b>								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	76,486	103.5	34,951
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	159,852	108.6	83,001
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	236,338	106.9	117,952
	国内販売台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	42,749	115.0	16,386
	商用車	483,275	348,527	381,930	79,429	131.9	31,856	
	合計	775,780	572,675	621,166	122,178	125.4	48,242	
	輸出台数	1,117,539	1,019,213	935,750	139,600	97.2	81,195	
二輪	生産台数	2,120,738	1,887,208	1,972,902	310,034	89.7	143,640	
	国内販売台数	1,856,814	1,683,239	1,711,846	304,925	100.3	150,801	
	輸出台数	822,608	938,762	893,198	151,666	101.0	72,588	
<b>【完成車輸出金額】(百万バーツ)</b>								
四輪		719,992	699,163	621,662	92,456	94.0	53,363	
二輪		68,589	63,969	61,596	10,438	96.7	5,086	

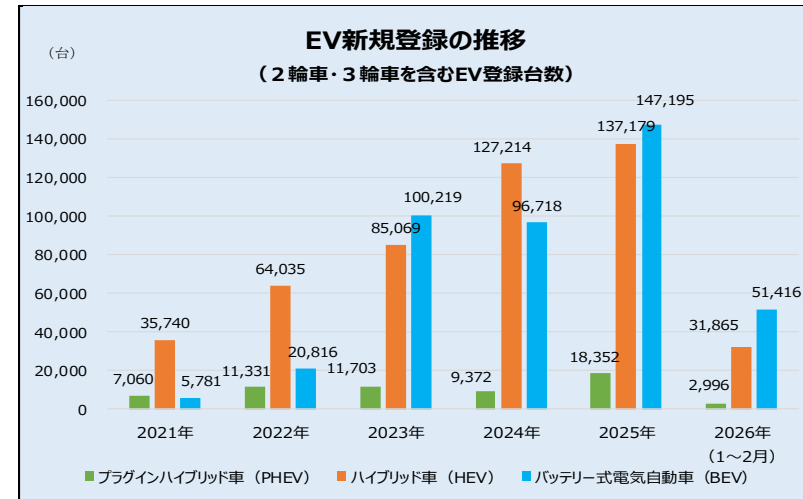
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。